

平成27年度
(2015年度)
自己評価報告書

平成28年3月

学校法人康学舎
上尾中央医療専門学校

1. 学校の教育理念・目標・特色

教育理念

上尾中央医療専門学校は、未来が求める「人」を育成します。
詳細は学生便覧 参照

教育目標

学生便覧 参照

特色

1. 徹底した情意教育
2. 効果の高い学習方法の実践
3. 充実した実習と効果的な配置
4. 早期からの確実な就職支援
5. 手厚い学生支援
6. 上尾中央医科グループを基盤とした教育システム
7. 卒業教育の充実
8. 3年間の最短学習

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

1) ビジョン

臨床に必要とされる卒業生を多く輩出し続ける

2) 平成27年度 目標

- (1) 本校の今後の方向性を明確化する
- (2) 学校評価活動の質を向上させる
- (3) 教育の質を担保する
- (4) 卒業教育ならびの卒業生支援体制を整備する
- (5) 「実践的な教育」について現状を整理し、具現化する
- (6) 情報公開を推進する

3) 平成27年度 事業計画

- (1) 本校の今後の方向性を明確化する
 - ・社会情勢、臨床ニーズをとらえる
 - ・意思決定機関を整備する
 - ・中期事業計画を明確にし、職員に周知徹底を図る
 - ・人事関連の規程を検討する（教員採用規程、昇給に関する規程）
- (2) 学校評価活動の質を向上させる
 - ・学生および保護者アンケートを実施し、広く意見を吸い上げる
 - ・評価項目の検討（本校の現状および第三者評価項目との照らし合わせ）
 - ・学校関係者評価委員会の充実
- (3) 教育の質を担保する
 - ・各種委員会活動（カリキュラム委員会、教職員教育委員会、講義評価委員会、実習要綱委員会、学生自治会、入学前教育委員会、就職委員会）の継続
 - ・学生募集定員を2月までに満たす
 - ・国家試験および就職率100%を目指す
 - ・進級率90%以上を目指す
 - ・カリキュラム変更について、行政への変更承認申請を実施する
 - ・教員における臨床研修の推進
 - ・教育後援会の在り方について方向性を定める
 - ・危機管理について、マニュアル見直しと周知徹底を図る
- (4) 卒業教育ならびに卒業生支援体制を整備する
 - ・卒業教育の具体的な方法について、検討し環境を整える（OB会との連携を含める）
 - ・卒業生の動向を把握する
- (5) 「実践的な教育」について現状を整理し具現化する
 - ・職業実践専門課程委員会を中心に、現在の実践的な教育について整理する
 - ・「職業実践専門課程」について、両学科とも文部科学省への申請を実施する
- (6) 情報公開を推進する
 - ・学校評価委員会を中心に「情報公開ガイドライン」に沿った情報公開を推進し、学校の透明性を高める
 - ・情報管理規程（個人情報保護を含む）の見直し

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1). 教育理念・目標

	評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
1-1	学校の理念を定め、理念に沿った目的・育人人材像を明確に定めているか	④ 3 2 1
1-2	育人人材像は、専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか (教育課程、実習など関連業界との連携協力関係の適切性を含む)	④ 3 2 1
1-3	理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	④ 3 2 1
1-4	業界、職種等の動向を踏まえ、中期的(3~5年)視点で、学校の将来構想を定めているか	④ 3 2 1
1-5	学校の理念・目的・育人人材像・特色・将来構想などを教職員・学生・保護者等に周知されているか	④ 3 2 1

※備考：職業実践教育＝関連業界等と密接な連携を図り、卓越した又は熟達した実務経験を基盤に、最新の実務知識・経験を教育内容・方法に反映した職業教育(中教審答申から)中期事業計画(書)＝3~5年の中期的視点で学校の将来構想計画をまとめたもの

① 課題

② 今後の改善方策

③ 特記事項

- ・学則等の情報は、ホームページに公開している。

(2). 学校運営

	評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
2-1	理念・目標等に沿った運営方針が策定されているか	④ 3 2 1
2-2	理念等を達成するための事業計画を定めているか	④ 3 2 1
2-3	学校運営のための組織を整備しているか	4 ③ 2 1
2-4	人事・給与に関する制度を整備しているか	④ 3 2 1
2-5	意思決定システムを整備しているか	4 ③ 2 1
2-6	情報システム化に取り組み、業務の効率化を図っているか	④ 3 2 1

① 課題

- ・校務分掌の見直しが必要である。
- ・意思決定システムを整備しているが、フローにおいて運用方法などに課題がある。

② 今後の改善方策

- ・校務分掌の見直しを実施する。
- ・意思決定システムの適切な運用について検討していく。

③ 特記事項

- ・上尾中央医科グループの経営方針との連動を図る。

(3). 教育活動

	評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
3-1	教育理念・目標に沿った教育課程の編成方針・実施方針等が策定されているか	④ 3 2 1
3-2	学校の特色に沿った教育課程の編成方針・実施方針等が策定されているか	④ 3 2 1
3-3	学科毎に就業年数に応じた教育到達レベルを明確にしているか	④ 3 2 1
3-4	教育理念・目標に沿った教育課程を体系的に編成しているか	4 ③ 2 1
3-5	関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、教育課程の作成・見直し等が行われているか	④ 3 2 1
3-6	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立った教育課程や教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4 ③ 2 1
3-7	定期的に各科目のシラバス、内容等の見直し、検討が実施されているか	④ 3 2 1
3-8	関連分野における実践的な職業教育（産業連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	④ 3 2 1
3-9	学校が主体となって実習指導者の教育の質を高め、一定の教育水準を担保する取組が行われているか	④ 3 2 1
3-10	授業評価の実施・評価体制はあるか	④ 3 2 1
3-11	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	④ 3 2 1
3-12	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準を明確化し、適切に運用しているか	④ 3 2 1
3-13	定期的に学生面談を実施し、必要に応じて個別指導を実施しているか	④ 3 2 1
3-14	資格・免許取得の指導体制はあるか	④ 3 2 1
3-15	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる、資格・要件を備えた教員を確保しているか	4 ③ 2 1
3-16	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成などの資質向上のための取組が行われているか	4 ③ 2 1
3-17	教員が教育の質向上のための研究を実施する環境を整備し、定期的に研究、発表が行われているか	4 ③ 2 1
3-18	教員が臨床能力を高めるための環境を整備し、実施できているか	④ 3 2 1
3-19	教員の組織体制を整備しているか	4 ③ 2 1

① 課題

- ・常に臨床ニーズを把握し、よりよい教育課程の編成を検討していく必要がある。
- ・キャリア教育への取組について検討が必要である。
- ・定期的に教育方法の効果判定と見直しが必要である。
- ・校務分掌の見直しが必要である。
- ・各教員が研修参加や研究発表をしているが、その実施にばらつきがある。

② 今後の改善方策

- ・カリキュラム委員会において、平成28年度からの教育課程改訂に向け、計画的に検討、事業を進めている。また、臨床セラピストと協同して教育課程、各科目の内容等の検討を継続して実施していく。
- ・キャリア形成をサポートする人員を育成していくとともに、キャリア教育の方針を検討、策定していく。
- ・定期的に教育方法の効果判定と見直しを実施するとともに、常により良い教育方法を模索し実施していく。
- ・学校評価委員会において、学校関係者評価を継続して実施していくとともに、各評価項目に沿った事項について整備していく。

- ・教職員教育委員会において、職能要件として教員に必要な能力に関する事項を整備し、運用している。
- ・職能要件に沿った系統的な能力開発、適切かつ効果的な教職員評価・教育に活用し、教育の質の向上を図る。
- ・研修計画に沿った研修参加を徹底し、適宜、実施状況を確認する。また、各教員がテーマを持ち、主体的に研究に取り組む。
- ・校務分掌（役割、業務分担、連携体制等）を見直し、作成していく。

③ 特記事項

- ・各方策において上尾中央医科グループのスケールメリットを十分に活用し実施していく。

(4). 学修成果

	評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
4-1	就職率の向上が図られているか	④ 3 2 1
4-2	資格取得率の向上が図られているか	4 ③ 2 1
4-3	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4 ③ 2 1

① 課題

- ・資格取得率向上に向けた指導方法は検討しているが、今後、効果についての検討・確認をより詳細に実施していく必要がある。
- ・卒業生の実績等を十分に把握していく必要がある。

② 今後の改善方策

- ・国家試験不合格者の対策中の学習姿勢や模擬試験結果との相関について検証する。
検証結果に基づき効果的な教授方法、学習方法を検討する。
- ・OB会（同窓会）と協力して、OB会総会のときなどに卒業生の実績を確認する。
- ・アンケート調査により卒業生の実績について確認する。

③ 特記事項

- ・9月20日（日）OB会総会、OB会勉強会、ならびに本校の卒後教育の一環として症例報告会を開催した。
OB会の勉強会の講師を本校教員が務め、OB会と学校のつながりを強化することができた。

(5). 学生支援

	評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
5-1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1
5-2	退学率の低減が図られているか	④ 3 2 1
5-3	学生相談に関する体制は整備されているか	④ 3 2 1
5-4	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4 ③ 2 1
5-5	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	④ 3 2 1
5-6	課外活動に対する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1
5-7	学生の生活環境への支援は行われているか	④ 3 2 1
5-8	保護者と適切に連携しているか	④ 3 2 1
5-9	卒業生への支援体制はあるか	④ 3 2 1

① 課題

- ・学校独自の奨学金制度の整備中である（平成28年度より開始予定）。
- ・健康に関する啓発活動をより実施していく必要がある。

② 今後の改善方策

- ・奨学金制度は作業療法学科で整備している段階である。
- ・OB会との連携を強化し、上尾中央医科グループ内での卒業教育の方法を検討していく。

③ 特記事項

- ・昨年度の退学率を踏まえ、職員のサポート体制（個別対応・情報共有）を整備し、対応している。
- ・学生相談に関して書類を整備し、学校の理念目標から各学年に応じた必要事項を整理し、それに基づいて面談を実施している。
- ・健康診断の結果を踏まえて、一定の基準を下回る場合は再診を促し、その結果を把握している。
- ・課外活動やサークル活動の現状把握を実施している。
- ・OB会との相談窓口を一本化し、運営のアドバイスをしている。今後は卒業生の動向把握や研修の企画を連携しながら進めていく。

(6). 教育環境

	評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
6-1	教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	4 ③ 2 1
6-2	学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	④ 3 2 1
6-3	防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	4 ③ 2 1
6-4	学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	4 ③ 2 1

① 課題

- ・学校安全規程を整備しているが、今後、詳細なマニュアルの見直しを実施する必要がある。
- ・一部の備品の転倒防止対策について見直しが必要である。
- ・安全管理担当教員をマニュアルのなかに明記する。

② 今後の改善方策

- ・学校安全規程として見直しをし、詳細なマニュアルを整備する。
- ・備品の購入元に相談し、転倒防止対策をおこなう。
- ・危機管理委員会、環境管理委員会にて、安全管理体制について適切に運用できるよう、見直し中である。

③ 特記事項

- ・環境管理委員会にて備品関係、危機管理委員会にて学校安全規程として見直し中である。

(7). 学生の受入れ募集

	評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
7-1	中学校・高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組を行っているか	4 ③ 2 1
7-2	学生募集活動を適切、かつ、効果的に行っているか	4 ③ 2 1
7-3	入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	④ 3 2 1
7-4	入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	4 ③ 2 1
7-5	経費内容に対応し、学納金を算定しているか	④ 3 2 1
7-6	入学辞退者に対し授業料等について適正な取扱いを行っているか	④ 3 2 1

① 課題

- ・高等学校の教職員に対する入学説明会を実施していくことが必要である。
- ・入学者の傾向についてデータを分析し、授業方法に活用していくことが必要である。
- ・学生募集活動における工夫が必要である。

② 今後の改善方策

- ・学校案内は、更に質のよいものが提供できるよう準備をする。
- ・高等学校の教職員に対する入学説明会を来年度から実施する。
- ・入学者の傾向について、入学前教育委員会及び入試委員会からデータを集約し、カリキュラム委員会で授業方法について検討する。
- ・学生募集活動に関する調査、分析、効果判定の方法ならびに指標とするものを運営会議で検討する。

③ 特記事項

(8). 財務

	評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
8-1	学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	④ 3 2 1
8-2	学校及び法人運営にかかる主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	④ 3 2 1
8-3	教育目標と整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	④ 3 2 1
8-4	予算及び計画に基づき適正に執行管理をおこなっているか	④ 3 2 1
8-5	私立学校法及び寄附行為に基づき適切に監査を実施しているか	④ 3 2 1
8-6	私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか	④ 3 2 1

① 課題

② 今後の改善方策

③ 特記事項

- ・評価項目と結果について、毎年見直しをしていく必要がある。

(9). 法令等の遵守

	評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
9-1	法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	④ 3 2 1
9-2	学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	4 ③ 2 1
9-3	自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	④ 3 2 1
9-4	自己評価結果を公開しているか	④ 3 2 1
9-5	学校関係者評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	④ 3 2 1
9-6	学校関係者評価結果を公表しているか	④ 3 2 1
9-7	教育情報に関する公開を積極的におこなっているか	4 ③ 2 1

① 課題

- ・個人情報保護に関する取扱い方針、電磁記録の取扱い等の見直しが必要である。
- ・個人情報管理に関する教育は実施しているが、より、学生・教職員に対する啓発をしていく必要がある。
- ・学校の概要、教育内容を積極的に公開しているが、「情報提供等への取組に関するガイドライン」を全て満たしている内容とはいえない。

② 今後の改善方策

- ・個人情報に関する取扱い、電磁記録の取扱いについて、運用を見直していくとともに、啓発及び教育を実施していく。
- ・「情報提供等への取組に関するガイドライン」をすべて満たしている内容となるよう、詳細な見直しを行う。

③ 特記事項

- ・危機管理委員会にて個人情報に関する取扱い、電磁記録の取扱い等の規程について見直し中である。

(10). 社会貢献・地域貢献

	評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
10-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか 地域・関連業界・卒業生への貢献 高等学校等が行う職業教育・キャリア教育に対する支援協力 など	4 ③ 2 1
10-2	・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4 ③ 2 1

① 課題

- ・社会貢献、地域貢献に関する規程を整備していく必要がある。
- ・地域住民への貢献について、上尾市内での地域支援事業会議に参入し協力体制が整った。現在、学校独自での活動(公開講座・クリーンデイなど)を準備段階である。
- ・ボランティアを含む活動の評価、および結果について学内で共有していく必要がある。

② 今後の改善方策

- ・学校諸規程について検討し整備していく。
- ・現在検討している事業企画(介護支援事業、公開講座を、クリーンデイ)を平成28年度より段階的に開始していく。
- ・平成29年度開始予定の職業・キャリア教育、カリキュラムと連動した貢献活動の準備を進めていく。
- ・諸活動の評価および結果の共有方法について検討していく。

③ 特記事項

- ・学生のカリキュラム(学事スケジュール)が過密であり、夏季・冬季の長期休暇を取る事も難しい現状であるが、最大限ボランティアへの参加推奨と支援を行っている。
- ・ポスター掲示や啓発などを実施し、学業とのバランスを取りながら参加支援を継続していく。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

1) 平成27年度目標に対する評価

- (1) 本校の今後の方向性を明確化する
 - ・社会情勢と、昨年度までの学校評価等で明確になっていた本校の課題点とを踏まえ、あるべき姿を明確にした。
 - ・あるべき姿と現状のギャップから、5年間の重点計画を導き出した。
 - ・重点計画に基づき、学校評価10項目の分野別に各種事業を計画し、「5年後を見据えた中期事業計画」を完成させた。
 - ・意思決定機能を明確にした（組織図の活用、教育部幹部会の運用等）。
- (2) 学校評価活動の質を向上させる
 - ・本校の現状および第三者評価項目との照らし合わせを行い、本年度評価項目を決定した。
 - ・学生および保護者アンケートを実施し、広く意見を吸い上げた。
 - ・自己評価に関しては、すべての評価について会議での議論を経て評価を実施した。
 - ・特に最終自己評価に関しては、職員全員が評価の視点を持つことを目的に、すべての評価項目について職員全員が自己評価を実施した。
 - ・アンケート結果については学生ならびに保護者の結果をまとめ、最終自己評価に活用した。
 - ・学校関係者評価を3回に増やし（前年度2回）、授業や施設見学など通じて学校を知っていただき、さまざまなご意見をいただいた。
- (3) 教育の質を担保する
 - ・各種委員会活動を継続し、それぞれの結果を得た
 - カリキュラム委員会 : AMGカリキュラム委員会の開催を経て現場の意見を教育に反映。平成28年度版カリキュラムを作成し、所轄の認可を得た。
 - 教職員教育委員会 : 本校独自の教員職能要件が完成、今年度から運用した（コミュニケーション・プロフェッショナルリズム、教育、臨床、研究、管理の5分野で個人の年度目標と連動した取り組みを実施し、一定の成果を認められた場合はレベル認定を行う）。
 - 講義評価委員会 : 「教員間での講義評価」について項目の見直しと運用、学生による講義評価の項目をそれぞれ見直した
 - 実習要綱委員会 : 3年間の臨床実習実施要綱を一冊にまとめ、今年度末より運用している。
 - 入学前教育委員会 : 昨年度実績の振り返りと結果分析を経て、今年度の内容を一部変更し実施した。
 - 就職委員会 : 早期からの就職活動を実施し、両学科とも全員就職が内定した。
 - キャリア教育検討チーム : キャリア教育の方針作成およびこれまでの取り組みを整理し、3年間のキャリア教育デザインを構造化した。
 - 地域貢献検討チーム : ボランティアに関する学生アンケートを実施し、得られた意見を活用し地域貢献事業計画立案や上尾市リハビリテーション協議会への参加、上尾市への事業参画、現行ボランティアの継続等に反映させた。
 - ・学生募集については、両学科とも受験者数が減少した。
 - ・国家試験は2月28日受験、合格発表は3月29日となっている。
 - ・教員における臨床研修については、理学療法学科教員6名、作業療法学科教員4名が病院・施設等での研修を実施した。
 - ・教育後援会については、会員全員にこれまでの経緯を伝えた上で存続についてのアンケートを実施しまとめた結果を参考にしながら、総会にて会の在り方について議論した結果、会としては解散となった。今後については、保護者対象の説明会や懇談会は残し、さらに時間や内容の充実を図ることで学校と保護者のより一層の連携を推進するとともに、学生生活については不利益が生じないよう後援会費を学生自治会へ移行した。
 - ・危機管理について、各種マニュアルの見直しと新規作成中である。さらにマニュアル等の管理規程についても合わせて準備している。
- (4) 卒後教育ならびに卒業生支援体制を整備する
 - ・卒後教育については、OB会と連携し症例検討会を実施し、卒業生ならびに在校生が参加し共に学びあう機会を得た。
 - ・卒業生の活躍を把握することについては、年度内に発送し確認した。
- (5) 「実践的な教育」について現状を整理し、具現化する
 - ・職業実践専門課程委員会を中心に、現在の実践的な教育について整理し、「職業実践専門課程」として文部科学大臣より認定された（認定日：平成28年2月19日付）。
- (6) 情報公開を推進する
 - ・「専門学校における情報提供への取り組みに関するガイドライン」（平成25年文部科学省）に沿った情報公開を推進し、学校の透明性を高めた。
 - ・マイナンバー導入等の社会情勢を踏まえ、情報管理規程（個人情報保護を含む）の見直し中である。

2) 課題点

<学校運営>

校務分掌の見直し、意思決定システムの適切な運用について検討、学校安全について詳細なマニュアル整備、備品の安全管理（転倒防止）、個人情報保護に関する方針を引き続き見直すとともに教職員へ徹底、さらなる情報公開の推進

<教育活動>

キャリア教育について引き続き検討、資格取得に向けた指導の効果判定、卒業生の実績把握、教員の研究活動のさらなる推進

<学生生活>

学校独自の奨学金制度の整備、健康に関するさらなる啓発

<学生募集>

高等学校の教職員に対する入学説明会の実施、入学者の傾向を活かした授業方法の検討、募集活動全般における工夫

<社会貢献>

社会貢献・地域貢献に関する規程を整備、ボランティア等の活動結果について学内で共有

3) 評価活動全般（計画、実行状況等）に対する振り返り

- ・重点目標および評価項目の設定について、昨年度の評価活動結果を活かし設定した。
- ・昨年度の課題点ならびに今年度の事業計画、さらに今年度中間自己評価からの課題点に対し、毎月実行状況を委員会で確認し、事業の確実な進捗を目指した。
- ・年間の評価活動は、おおむね当初の計画通りに進行した。
- ・指定規則に関わる自己点検評価を6月に実施し、問題なく終了している。
- ・学校関係者評価委員会を3回実施することで、学校を知ったうえで詳細なご意見をいただき、自己評価の客観性・透明性がさらに高まった。
- ・評価結果（アンケート結果含む）は3月の理事会に報告するとともに、今年度中にホームページ上に公開予定である。
- ・教職員全員が評価の視点を持ち、質保証の取り組みを行うこと（評価文化の定着）が今後の目標である。

4) 総括

- ・学校評価ガイドラインならびに本校学則・規程に沿った自己評価ならびに学校関係者評価が適正に実施された。
- ・課題点は次年度の事業計画に反映し、併せて評価項目を検討する。
- ・学生ならびに保護者アンケートの結果を活用することで、評価の妥当性が高まった。今後も継続していく。
- ・学校関係者評価委員会の委員選出について、職業実践専門課程において要求度が高まったため、来年度の委員選出を検討する必要がある。
- ・2017年度の第三者評価受審を目標に、さらなる評価活動の質向上を目指す。